# 迷探偵紫

鮭好きの子猫

## 【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ここは幻想郷……。事件が沢山起こる場所。

そんな事件を、紫達が解決する物語。

# 目次

第一章　急雪事件
第一話 ―――― 1

# 第一章　急雪事件

## 第一話

ここは、幻想郷。異変が沢山起こるのだ。

??「紫（ゆかり）様！」

私は、八雲（やくも）紫（ゆかり）。ここの、名（迷）探偵だ。で、そう言ってい、紙を沢山持っている、黄色髪の狐……　八雲（やくも）藍（らん）。仕事をよくやってくれる。言えば、相棒だ。

藍「異変です！」

紫「またか……」

これで、十一回目の異変だ。もうそろそろ、数えれなくなって来た。

紫「ちなみに、何があった？」

藍「えっと、いきなり、雪や、雪の結晶に、雹などが降るという。外を見て下さい。冬みたいに、大雪ですよね」

ふむ。今は、秋と冬の間らへん……　なのに、大雪が降るなんて、幻想郷でもおかしい。外の世界の、地球温暖化というのは、幻想郷には来ていない。それなのになぜ来たのだろうか。

藍「雪……。それが出来る人は、相当いませんね。チルノは、ここまで力は強くありませんし。一体誰なのでしょう？橙！資料を持って来てくれ」

??「はい！」

そう言って、自分の身体よりもちょっと小さいぐらいの資料を持って来た、茶髪の子猫、橙（ちぇん）。私よりは使えないが（藍も（？））。橙はよく、運動神経も良いので……まぁすばしっこいと言えば良いだろうか。

橙「えーっと、一番初めに来たところは、妖怪の山で、そこが一番、大雪だそうです。何回か、土砂崩れが起きているので早めにやった方がいいと思いましゅ！あ、ごめんなさい……噛みました」

うん……。橙、前より噛まなくなったよ……。多分。でも、土砂崩れが起きるのは予想外だ。土砂崩れが起きて、守谷神社……　緑髪の少女、東風谷早苗（こちやさなえ）、見た目は幼女だが、実は神の、洩矢諏訪子（もりやすわこ）。大きなしめ縄を持っている、八坂神奈子（やさかかなこ）が住んでいる、洩矢神社。そこに土砂崩れが起きたら大分大変な事になるだろう。まず、その前にその事件の犯人を探さなければいけないだろう。

紫「ふむ。分からないところは何個かはあるが、とにかく、どこかへ行けばヒントが得られるはず！」

藍「いや……　紫様。どうやら、事件の犯人は、妖怪の山にいると思います」

キリッとした顔で、藍は言った。なぜか、私には藍が言っている事が本物に思えてくる。いつも、何でかは知らないが、藍の言うことが当たるのだ。

紫「え？どうしてかしら？」

私には、どういう事かは分からない。だが、もう藍は分かっているようだ。

藍「はい。まず、妖怪の山で、そこが一番、大雪だそうです。何回か、土砂崩れが起きているので早めにやった方がいいと、橙は言いました。じゃあ何で、〝妖怪の山が一番大雪だ〟と思いますか？幻想郷を狙うなら、博麗神社の方が、いいと思います。犯人が、弱い方だとすると、一ヶ所だけ強くなります。それはなぜですか？」

紫「あっ！そこに今いるから？」

藍「そうです。そこにいるから、そこだけ強くなってしまいましたね。そこら辺は犯人は考えていなかった、と言うことですね。じゃあまず、弱いと言うことも覚えておいて下さいね？多分、後々ヒントになると思いますよ」

よし。良い感じに進んで行っている。これだったら直ぐに行けそうだ。ヒントは、〝犯人は弱く、妖怪の山にいる〟、と言うことだ。それで考えて行くと、どんどん、候補が無くなって行く。これだったら犯人がすぐに絞れそうだ。やっぱり藍は、使える。

藍「早速、服を着替えておきましょうか。あまりにも寒い服だったら無理ですからね。直ぐに行けるよう、準備して下さいね」

紫「はーい」